

**「医師から医師への疑義照会」  
の実態調査報告書**

**平成27年11月25日**

**株式会社QLife(キューライフ)**

## 調査の背景と結論

処方薬に関する疑義照会といえば通常は「薬剤師の仕事」である。ただし昨今よく指摘される問題として、別々の専門領域の医師が、処方を積み重ねてしまうことによるポリファーマシー（多剤処方）があり、この弊害を防ぐためには、医師から医師に対しての確認・意見・相談行為が必要と思われる。ところが、「他医の処方には口を出しにくい」文化があり、施設を越えた医師同士のコミュニケーションは難しいと言われる。

そこで、他医の処方に対する「医師からの疑義照会」がどの程度なされているのか、その実態を確かめるべく、開業医を中心とした医師250人を対象にインターネット調査を実施した。

その結果、多くの医師が他院の処方内容を見て、「明らかにおかしい」と思ったことがあることがわかった。ただし「明らかにおかしい」と思っても、疑義照会・意見・相談を「全くしない」医師がほとんどであった。

### 1) 他院の処方を見て「明らかにおかしい」と思ったことがある

7割以上の医師は他院の処方内容を見て、「明らかにおかしい」と思ったことがあると回答した。

### 2) 他院の医師に対して疑義照会・意見・相談を「全くしない」医師が多数派

7割以上の医師が、他院の処方内容を見て「明らかにおかしい」と思った場合でも疑義照会・意見・相談は「全くしない」と回答した。疑義照会しない理由としては、「他院を尊重」「面倒・多忙」「トラブル回避」などが多かった。

注：後出するように、直接はしなくても患者を介して間接的に行う医師はおり、これは含まれない。

### 3) 他院の医師から、疑義照会・意見・相談を「受けたことがある」

2割以上の医師は、他院の医師から自分の処方内容に関して、疑義照会・意見・相談を受けたことが「ある」と回答した。

## 【調査実施概要】

### ▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 診療所の理事長・院長・副院長・勤務医
- (2) 有効回収数: 250人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2015/8/11 ~ 2015/8/18

### ▼有効回答者の属性

- (1) 性別・年代:

年代	男性	女性	n
30~40代	59	12	71
50代	118	6	124
60代以上	53	2	55
総計	230	20	250

年代	男性	女性	%
30~40代	23.6%	4.8%	28.4%
50代	47.2%	2.4%	49.6%
60代以上	21.2%	0.8%	22.0%
総計	92.0%	8.0%	100.0%

- (2) 勤務施設:

	n	%
診療所の理事長・院長	188	75.2%
診療所の副院長(常勤)	18	7.2%
診療所の勤務医(上記以外)	44	17.6%
総数	250	100.0%

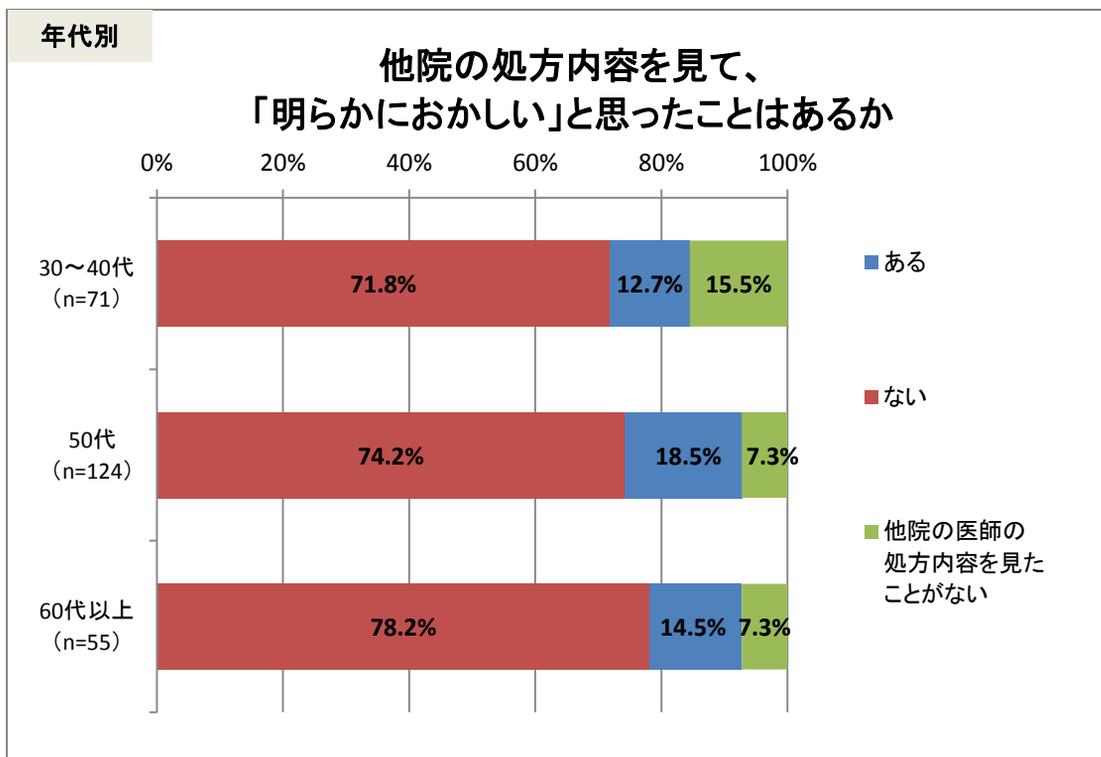
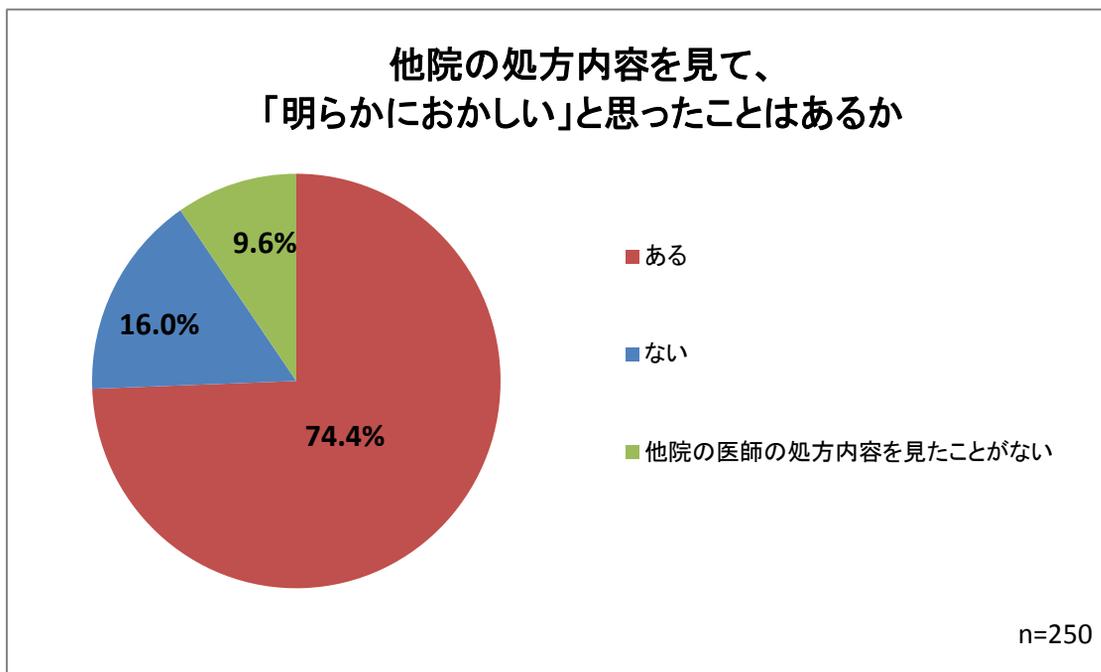
- (3) 地域:

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
6.0%	0.8%	0.8%	1.2%	0.4%	0.4%	2.0%	1.2%	1.6%	1.6%
埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県
1.2%	2.4%	16.8%	6.8%	0.4%	0.0%	1.6%	0.0%	1.2%	1.2%
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
1.2%	1.6%	8.8%	0.8%	1.6%	4.0%	9.6%	5.2%	0.8%	1.6%
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.4%	0.4%	1.2%	2.8%	0.8%	0.4%	1.6%	1.6%	0.4%	2.4%
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外		
0.8%	2.0%	1.2%	0.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%		

【Q1】あなたが、他院の処方内容を見て、「明らかにおかしい」と思ったことはありますか。

74%の医師は、他院の処方内容を見て、「明らかにおかしい」と思ったことが「ある」と回答した。

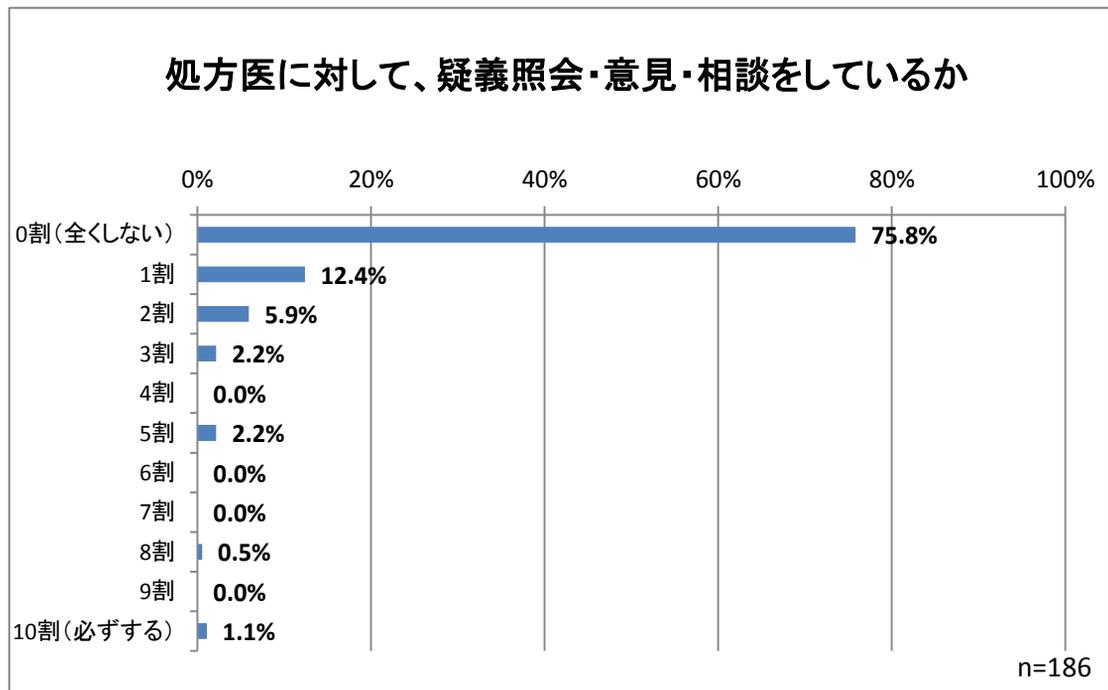
年代別で見たところ、年代が上がるにしたがって、「ある」と回答した割合が高くなった。

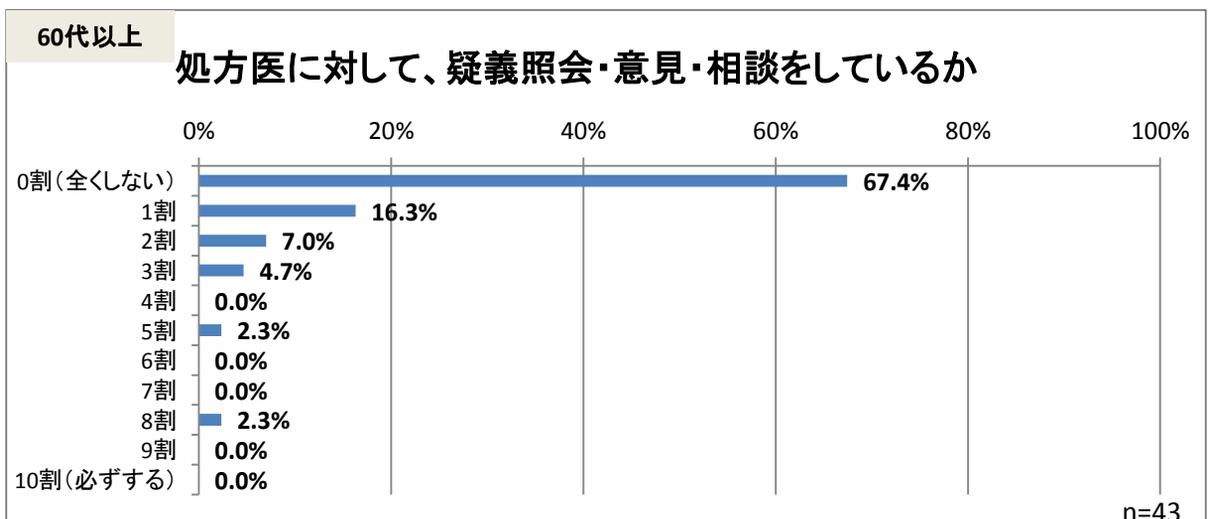
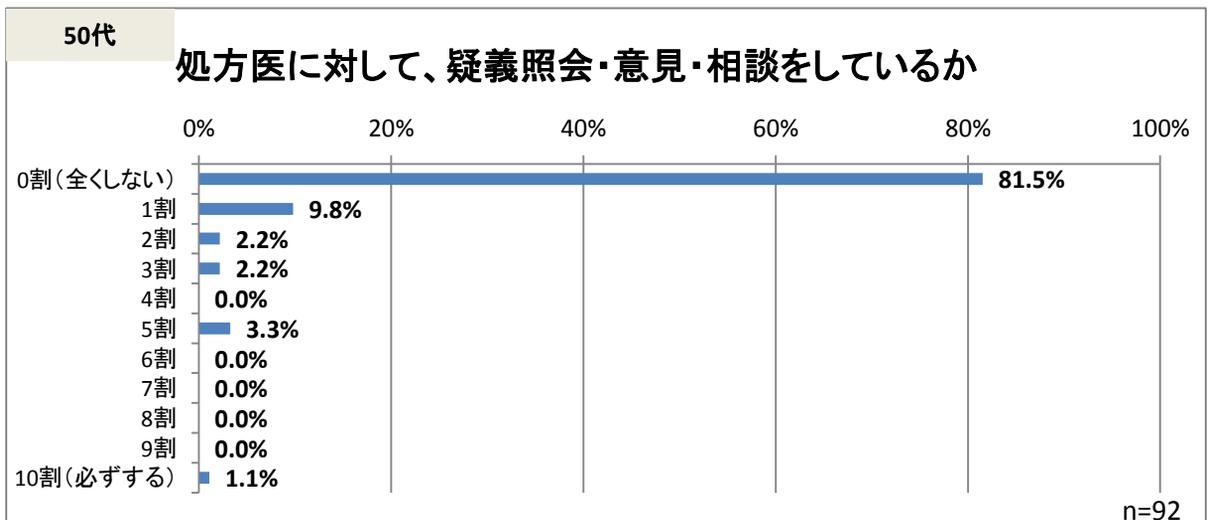
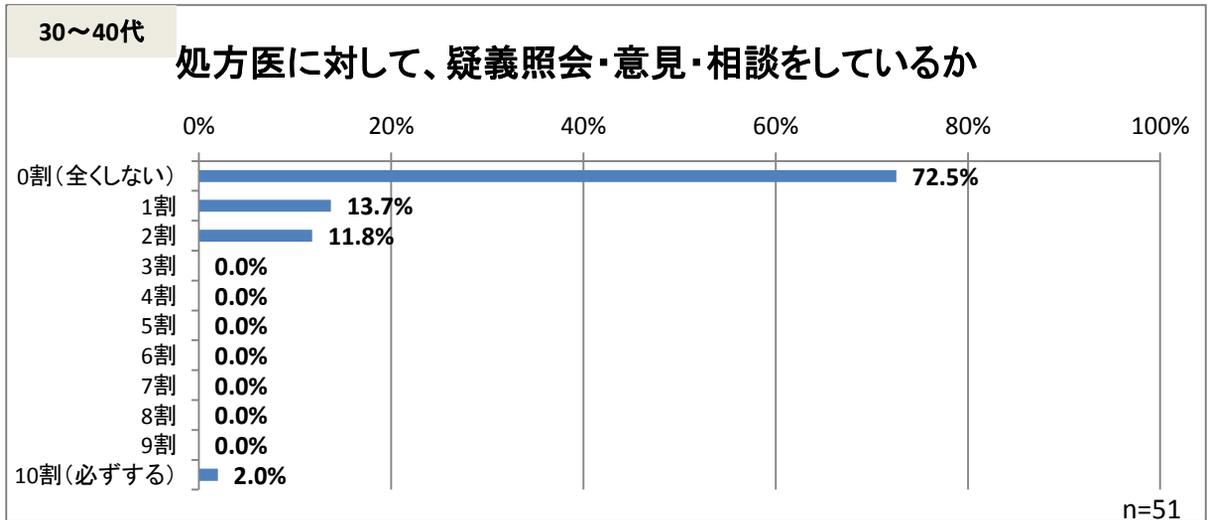


【Q2】あなたが、他院の処方内容を見て「明らかにおかしい」と思った際、どの程度、処方医に対して疑義照会・意見・相談していますか。(Q1で「ある」と回答した人のみ)

76%の医師が、他院の処方内容を見て「明らかにおかしい」と思っても、処方元の医師に対して疑義照会・意見・相談は「全くしない」ことがわかった。

年代別で見たところ、50代の医師が、疑義照会・意見・相談を「全くしない」と回答した割合がもっとも高く、8割を占めた。





【Q3】他院の処方医に対して疑義照会・意見・相談しない時があるとのことですが、その理由を教えてください。（Q2を回答した人のうち、「10割（必ずする）」と回答した人を除く）

他院の処方医に対して疑義照会・意見・相談しない時がある理由を質問した。以下に代表的なコメントを挙げた。

#### ◆他院を尊重

- ・他院の医師に失礼だから。よほどの事がない限り意見はしません。（勤務医／50代／静岡県）
- ・「私には理解できない、専門家ならではの使い方」かもしれないから。（勤務医／50代／愛知県）
- ・それぞれの先生のポリシーが反映されていることであり、その処方が禁忌でない限りは、尊重すべき。（副院長（常勤）／50代／福島県）

#### ◆面倒・多忙

- ・各医師には処方権があり、変更してもらうには膨大な努力が必要になるから。（理事長・院長／60代／愛知県）
- ・面倒なので、こちらで患者さんに説明する。（理事長・院長／60代／広島県）
- ・診療が忙しくて、かまっていられないか、忘れてしまっている。（理事長・院長／40代／愛知県）

#### ◆トラブル回避

- ・田舎なので関係がこじれると患者紹介先がなくなるから。（理事長・院長／50代／佐賀県）
- ・患者さんに知れると他院と患者さんのトラブルの原因となる可能性があるから。（理事長・院長／50代／京都府）
- ・医療訴訟の原因になりたくない。（勤務医／50代／京都府）

#### ◆自院で変更すればよい

- ・適切な内服を私が処方しました。（勤務医／50代／栃木県）
- ・他院の処方薬をやめてこちらの処方薬を服用してもらえば特に問題はないと考えるから。（理事長・院長／60代／熊本県）

#### ◆効果がない

- ・過去に照会した経験があるが、相手に真摯に聞いてもらえなかった。（理事長・院長／60代／愛知県）
- ・言っても変わることは無いから。（理事長・院長／50代／福岡県）

#### ◆意見しづらい

- ・処方内容がおかしいという照会などを、医者相手にできるはずがない。（理事長・院長／60代／東京都）
- ・相手に気を使うから。（副院長（常勤）／40代／和歌山県）

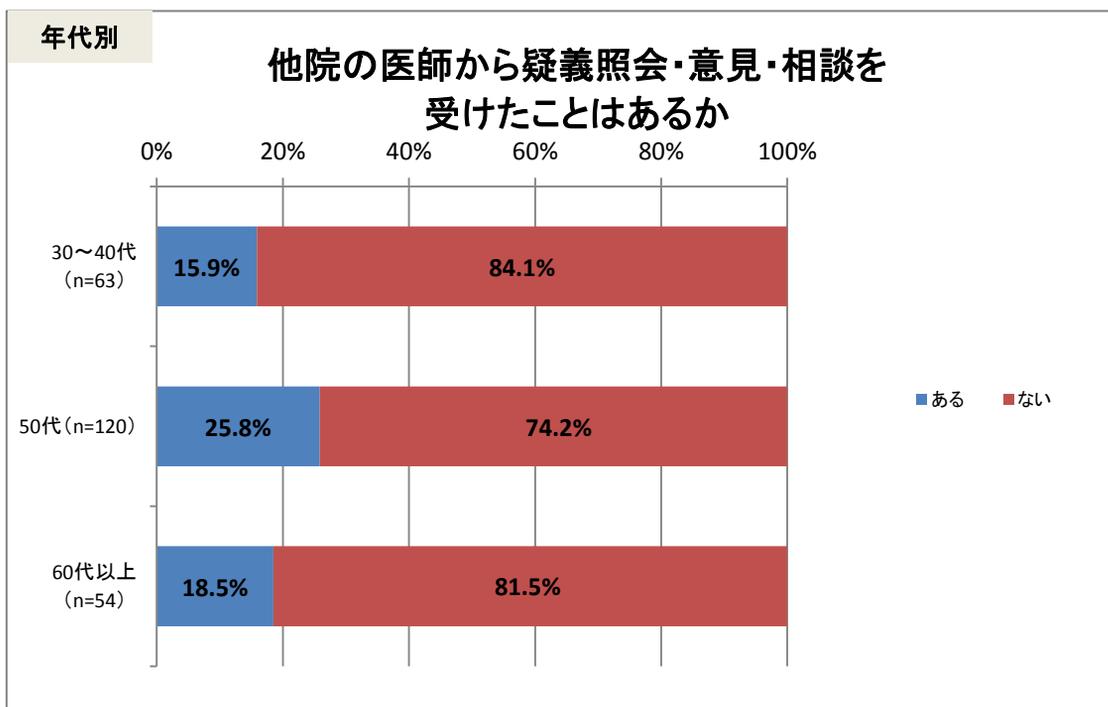
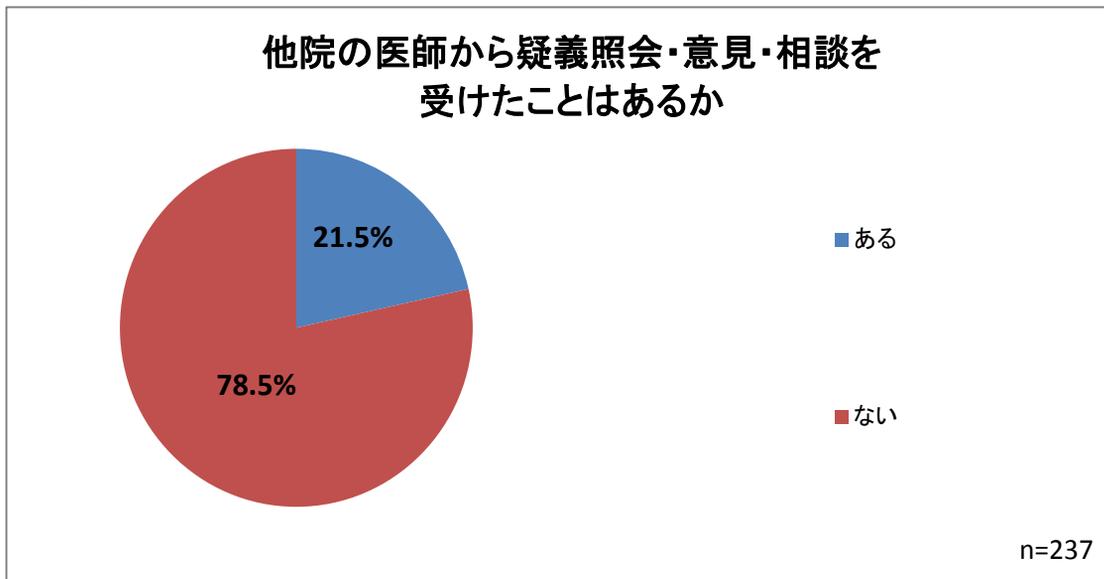
#### ◆患者本人に対処してもらう

- ・患者自身に当該医師に対して確認をしていただく。患者の認識が間違っている可能性が否定しえないため。（理事長・院長／40代／東京都）
- ・患者に説明して患者からその医師に相談してもらうという方法を採用することが多い。（勤務医／50代／茨城県）

【Q4】逆にあなたが、(薬剤師からではなく)他院の医師から、あなたの処方について疑義照会・意見・相談を受けたことはありますか。

22%の医師は、他院の医師から、自分の処方内容について疑義照会・意見・相談を受けたことが「ある」と回答した。

年代別で見たとところ、50代の医師が、処方医に対して疑義照会・意見・相談をしたことが「ある」割合がもっとも高く、4分の1を占めた。



※「あまり薬の処方をしないなどの理由でこの設問に該当しない」とした人を除外して集計

---

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 田中 智貴

TEL : 03-3500-3525 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名: 株式会社QLife(キューライフ)

所在地: 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-1 ポッシュビル赤坂7F

代表者: 代表取締役 山内善行

設立日: 2006年(平成18年)11月17日

事業内容: 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念: 医療と生活者の距離を縮める

URL: <http://www.qlife.co.jp/>

---